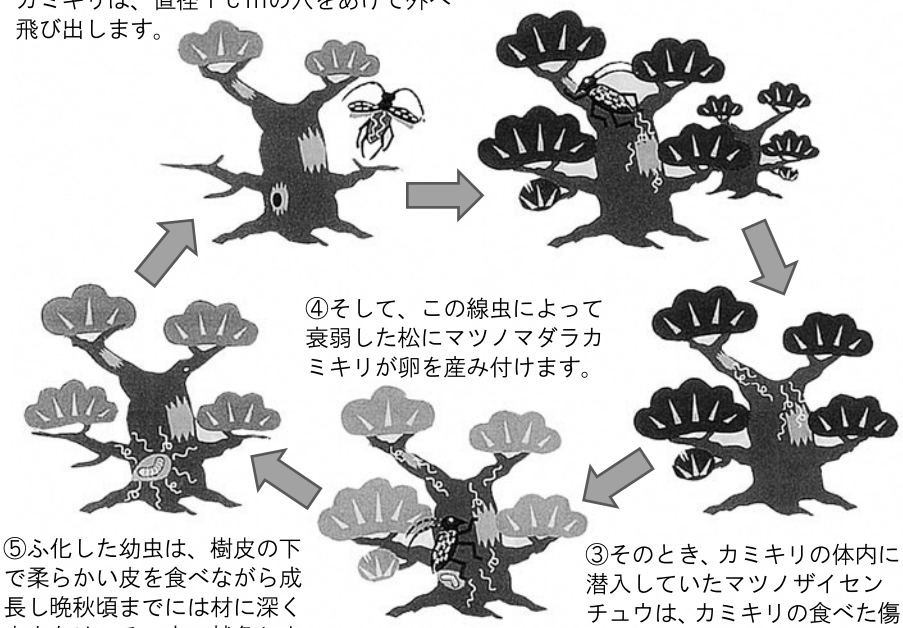
松くい虫被害及びナラ枯れ被害の予防について

○松くい虫被害は松を枯らす伝染病です。本県の松を次の世代へと引き継ぎましょう。

①枯れた松の材内で越冬したマツノマダラカミキリは、春から初夏にかけて蛹になり羽化して成虫になります。そのとき線虫はカミキリの体に乗り移り、線虫をかかえたカミキリは、直径１ｃｍの穴をあけて外へ飛び出します。

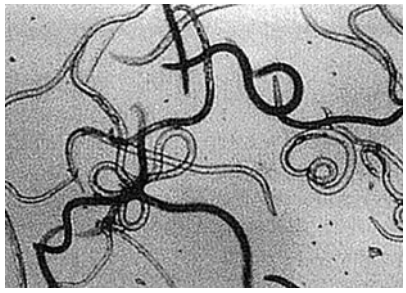
②カミキリは、夏の間健全な松から松へと飛びまわり、小枝の皮を食べます。



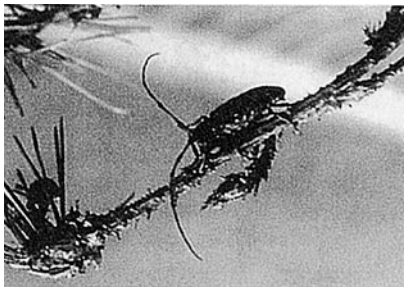
④そして、この線虫によって衰弱した松にマツノマダラカミキリが卵を産み付けます。

⑤ふ化した幼虫は、樹皮の下で柔らかい皮を食べながら成長し晩秋頃までには材に深く穴をあけ、その中で越冬します。

③そのとき、カミキリの体内に潜入していたマツノザイセンチュウは、カミキリの食べた傷口から松の材内に侵入し、急激に松の生理異常をもたらし、松を枯らしてしまいます。

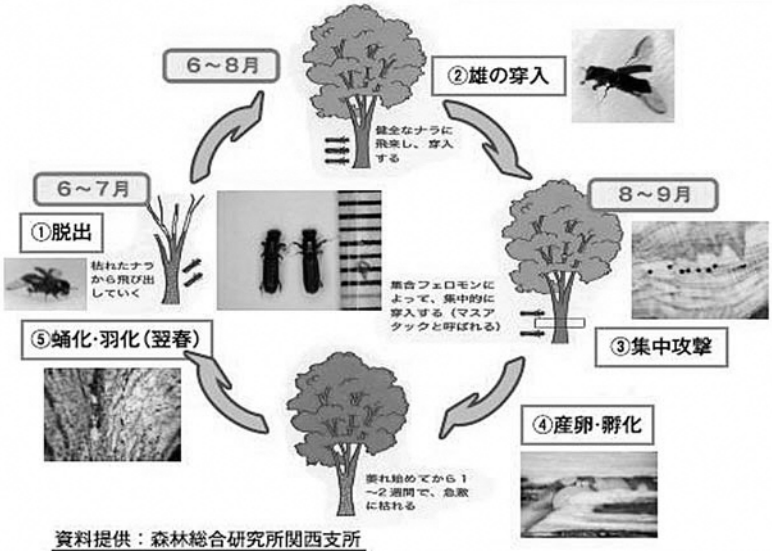


病原体マツノザイセンチュウ



病原体を運ぶ虫マツノマダラカミキリ

○平成２８年１０月以降、深浦町において本県２例目となるナラ枯れ被害が発生しました！



① ６月下旬から８月頃にかけ、体長５ｍｍほどのカシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）が健全なナラ類の幹に穴を開けて内部に入り込み、内部を掘り進んで行きます。

② このとき、カシナガの体に付着したナラ菌が内部に持ち込まれます。（カシナガとナラ菌は共生関係にあります）

③ ナラ菌の繁殖により、通水が阻害された木は衰弱し、７月下旬から枯死が始まり、８月下旬に枯死が目立ち、９月下旬までにほぼ枯死は終了します。

④ 翌年６月下旬頃、次世代の成虫が羽化・脱出し、近くの健全木に集中して穴を開け入り込みます。

夏の盛りに紅葉したように枯れる（急速に枯れることから落葉しない）

根元には細かな木くずがたくさん散らかっている。

枯れかかっているマツやナラ類を見つけたら、東通村役場つくり育てる農林水産課、下北地域県民局林業振興課、東通村森林組合までお知らせ下さい。